

すみません、文書を羅列しただけのおもんない冗長エッセイになっちゃいました

第19期 喜多村 留衣

面白い人間でありたいと激烈に痛い思いを抱きながら、学生生活が終わりそうだ。一般的な大学生は、出世したいとか、お金持ちになりたいとか、良い家に住みたいとか、外車に乗りたいとか（これは私も乗りたい）、そう心に決めて社会に出ると思うのだが、私はただ、面白くありたい。一般的な大学生は、将来の資産形成とか、年金とか、人生計画とか、寄る年波とか（これは私も不安）、そういう事柄に不安を抱くのだろうが、私は、社会の波に揉まれることで、自分の面白さが削がれてしまわないかが、一番の不安の対象だ。面白ければなんでも良い、そう思って生きてきた。厳しい母親の女手一つのもと健やかに育ち、小中高大と順調に生活し、ましてや大学はあの慶應義塾に入学できた。何で私はこうなってしまったのか。

この小野ゼミに入ゼミした時、私の同期に対する第一印象はこうであった。「この人たちと気が合うか？」誰もボケない。ツッコミも不在。びっくりした。うまくやっていけるのか、本当に心配した。私が初めて付き合うタイプの人達であった。でも、二年間、様々な苦難を乗り越えた今、私は心からこう思っている。

「本当にごめんなさい。」

いや本当に心の底からごめんなさい。本務代表なのに補助金申請しかまともにやってなくてごめんなさい。真面目な議論をしている時に毎回ボケてしまっでごめんなさい。諸々の書類を出すのが遅くてごめんなさい。なんというか、面白い人間でありたいとかほざく前に、ちゃんとした人間であるべきでした。

私は、同期を始め、本当に環境に恵まれ続けていると思う。小学校時代、周りとうまく溶け込めなかった私を助けてくれた人。中学校時代、間違っただに進もうとした私を止めてくれた人。高校時代、尖りに尖っていた私と向き合い、今でも付き合ってくれている人。そして、この小野ゼミでもだ。小野先生も、大学院の先輩も、18期の先輩も、同期も（第19期鈴木智也はこちら側だ）、後輩も、こんな変で痛い私を見捨てず、ずっと付き合ってくれている。なんて良い人達なんだろう、と思う。ありがとう。ありがとう。

しかしながら、普通、そんな素晴らしい人達に囲まれていたら、私も「面白い人間でありたい」みたいな痛すぎる内容を卒業エッセイに書かないはずだ。数年後、数十年後の私はこのエッセイをどう思うのか。でも冒頭に書いた思いは真実である。ここで最初の疑問に戻る。何で私はこうなってしまったのか。

それは、恐らくだが、真面目な人達や私が心から尊敬する素晴らしい人達を、喜ばせたいからなのである。なんだかまた痛い文章が飛び出してしまったが、本心である。私が尊敬する人達は、学問を通して、仕事を通して、日々の作業を通して、様々な人の手助けをし、喜びを与えられている。いわば、私がこんな人間であり続けるのは、そのような人達こそ、私が笑わせたいと思う人なのではないだろうか。同期が議論中に笑顔を見せてくれる瞬間が、発表中の表情から細かい書式まで、何百もの指摘をしにくさる先輩が、紆余曲折を経てまとまりを得た後輩が、普段恐ろしく鋭い指摘をしにくさる大学院の先輩が笑顔

を見せてくれる瞬間が、そして、私が大学生活で出会ってきた多くの人のなかで、最も尊敬する人である小野先生が笑顔を見せてくれる瞬間が、私は本当に嬉しいし、喜ばしく思っていた。特に小野先生の笑顔と森さんの笑顔は素敵です。こう考えると、私がこうなってしまったのは、皆さんのせいです。うまく責任転嫁ができました。どうか責任を取って、今後も末長くお付き合いしてください。養ってください。

なんだかまとまりのない、変なエッセイになってしまった。これが私の小野ゼミ現役生活における、最後の活動だと思うと、震えるくらい寂しい。厳しくも最高に楽しい、ここでしかできない経験を続けた2年間でした。最後まで、しっかり感謝を述べようと思います。まず、同期の第19期。私のドン滑りギャグに、2年間も付き合ってくれてありがとう。恐らく、私はみんなのことをしばらく忘れません。社会人になって、苦しくなったら、ぜひ私を呼んでください。ボケとツッコミで恩を返します。あと卒業までに諸々の借金も片付けます。次に、第18期の先輩方。私の酒癖が悪いせいで何度も迷惑をかけました。本当にごめんなさい。でも、こんな私をゼミに入会させてくれたことに生涯感謝し続けますし、尊敬します。飲み会連れてってください。そして、第20期の後輩。始動当初はまとまりがなく、すごく心配していましたが、私は君達を入会させたことを誇りに思います。私(達)の目が間違っていなかったことを証明してくれて、本当にありがとう。さらに、大学院生の先輩方。私が何度も拙いミスをして、最後まで面倒を見てくれた森さん、私の卒業論文の仮説に大事なアドバイスをしてくださった第16期の大天才北澤さん(本人にこう紹介しろって命令されました)、等身大でいつも話してくれたヨウさん、私と智也のダル絡みにもずっと付き合ってくれたティファニーさん、大好きです。

最後に、小野晃典先生。先生の指摘ひとつひとつが、先生の言葉ひとつひとつが、私を強く、そして、一人の人間として、成長させてくれました。私はどうしても、先生の前でもボケてしまいがちでしたが、それは先生への尊敬の裏返しと捉えてください。先生はよく、私(と鈴木智也)のことを、「ちゃらんぼらんだねえ。」と言ってくださいました。私の相方については知りませんが、先生、恐らく私はしばらく、ちゃらんぼらんです。お許しください。でも、小野ゼミOBとして、その一員として恥じることはないよう、今後の活動に全力で、根性むき出しで取り組んでいきます。あと、小野先生、一緒にビールが飲みたいです。

あの、本当にありがとうございました。もうこの時点では、私はなんとなく、このエッセイを書く作業を終わらせたくなくて、必死に何かを書こうとしてだらだら引き延ばしています。それだけ、私はこの小野ゼミが大好きですし、このゼミの一員になれたことを誇りに思っています。本当に、2年間、ありがとうございました。なんだかこのエッセイでもボケたかったのですが、私、根は真面目らしいので…。

最後の最後に、未来の小野ゼミの後輩に向けて、何か残すことを、だらだらと書きながら閃きました。参考文献リストにおいて、雑誌名における「The」は、慣習として省略してください(私が卒論で最後まで修正できなかったミス)。根性見せて、時にはお酒で全部忘れて、最後まで頑張ってください。その先に、必ず何かがあるはず。何かあったら、気軽に連絡ください。私の連絡先は、何を送っても大丈夫です。



愚痴でも飲み会の誘いでも就活の相談でも。皆さんは、何期私と離れていても、私の、小野ゼミの後輩です。

私がゼミ活動で一番印象的な四分野インゼミにて。この日のために覚えたスクリプトが発表寸前に私の頭から消し飛び、脚をガタガタ(本当に)震わせながら発表しました。岡本ゼミの子にバレてました。最悪。(著者は2列目左から3番目)